

会 議 録

1 会議名

令和7年度 第2回津有区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

- ・雄志中学校と牧中学校の統合について

3 開催日時

令和7年7月15日（火）午後6時30分から午後8時15分まで

4 開催場所

津有地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名

- ・委 員：青木委員、石黒副会長、近藤委員、竹内委員、中島会長、服部委員、
藤井(潔)委員、藤井(光)委員、丸山(明)委員、丸山(勝)委員、
丸山(孝)委員、山本委員（欠席なし）
- ・教育総務課：小池参事、三輪係長
- ・事務局：中部まちづくりセンター 井守所長、村山副所長、渡邊係長、鈴木主事

8 発言の内容（要旨）

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中島会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・挨拶

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【中島会長】

- ・会議録の確認：藤井(光)委員に依頼

次第3 議題「(1) 報告事項」の「雄志中学校と牧中学校の統合について」に入る。教育総務課からの説明に入る前に事務局へ諮問・答申についての説明を求める。

【村山副所長】

先月、牧中学校を廃止することについて、牧区地域協議会に対し諮問があった。牧区地域協議会から、地域住民の生活に支障なしとの答申があったことから、本日、統合する雄志中学校区の地域協議会に経過を報告するため、担当の教育総務課が出席している。

今期はまだ諮問事項を取り扱っていないため、初めに諮問・答申について簡単に説明する。地域協議会委員の手引きに詳細が記載されているが、地域協議会には二つの役割がある。一つ目が自主的な審議、もう一つが諮問・答申である。地域自治区内にある公の施設の設置や廃止、管理の在り方などに関し、市長から意見を聞かれた事項について話し合い、その結果を答申という形で市長に返すものである。

【中島会長】

ただ今の説明について、質問、意見はあるか。

(発言無し)

質問、意見が無いようなので、「雄志中学校と牧中学校の統合について」、教育総務課の説明を求める。

【教育総務課 小池参事】

- ・資料1、2、3に基づき説明

【中島会長】

ただ今の説明について、質問、意見はあるか。

【丸山(勝)委員】

学区が広範囲になり、生徒の通学にかなり時間がかかる。特に負担となる、冬期間の体制について知りたい。豪雪で交通が途絶したときに、オンライン授業なども考えているのか。スクールバスが運行できなくなった際の体制などについて、地域の方に話していただきたい。

【教育総務課 小池参事】

牧区の方も通学のことを心配していた。まだ棚広などにもお子さんがいらっしゃる。

また、三方向から集まってきて中学校の前で一台のバスに乗って行くということだった。通学に時間がかかるのは、ご理解いただいております、冬場の大変さもよくご存じである。例えば東頸中学校の場合、登校時刻を 5 分遅くしたが、冬になると間に合わなくなり、バスの出発を 5 分早めて対応している。バスがどのくらい時間がかかるのかを検証しながら、始業時刻を少し工夫したり、バスの発着時刻についても検討したりする必要があると思う。また、バス停についても、その年度によってお子さんの住んでいる地域が違っているので、その辺もよく検討する必要がある。

また、路線バスになった場合、今は雄志中学校よりも随分と手前にバス停があつて、せっかくバスに乗ったのに、降りてから長い距離を歩くことになる。それを改善できないか、関係課と協議をしている。いずれにしても、保護者によく説明し、ご意見をいただきながら進めていく。

【中島会長】

他に質問、意見はあるか。

(発言無し)

質問、意見が無いようなので、以上で、次第 3 議題「(1) 報告事項」の「雄志中学校と牧中学校の統合について」を終了する。

・教育総務課退席

次に、次第 3 議題「(2) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」に入る。事務局の説明を求める。

【鈴木主事】

自主的審議の前に一件、報告させていただきたい。

今月 9 日、介護事業所と住民組織に対する顕彰制度の表彰式が高田城址公園オーレンプラザにおいて開かれ、津有地区地域づくり協議会が表彰された。この制度は、要介護の改善に取り組む介護事業所や地域の住民組織を顕彰するもので、表彰式のほか、取組の発表会として、津有地区地域づくり協議会から取組の発表があった。

具体的には、高齢者の人口規模が 1,500 人以上 3,000 人未満の団体のうち、参加率部門と男性実参加人数部門で 1 位だった。日頃から、津有地区公民館やファームセンターでサロン活動を行っているが、地区が広いため、車を持っていない人が参加しにくいという課題があった。これを解決するため、月 3 回、各町内会館に出向いて「出前サロン」を開催したところ、徒歩による参加の機会が増え、特に男性の参加人数が増加したとの

発表があった。

また、これに伴い、町内会長とのやり取りも増え、町内会長から住民の方へ声掛けをもらえるなど、協力関係も併せて築くことができたとのことである。

報告は以上である。

続いて、本日の自主的審議事項について説明する。

・非公開研修時の資料に基づき説明

【中島会長】

公民館事業の説明を聞いた感想について、各委員から発表していただく。

【竹内委員】

出前サロンについて、せっかく来たから参加してみようと思い、ボッチャを体験させてもらった。それから病みつきになり、毎回、出前サロンに参加しているし、役員も誘って、都合が良ければ出てもらっている。ファームセンターで一回、ちょっとしたボッチャの大会のようなものがあり、それにも出て、和気あいあいと昔の人と会えて、懐かしかった。確かにあのような交流の場は必要だし、有意義だなと思った。

【服部委員】

公民館主事を始め、公民館運営委員の方々がどういうことをやったらいいだろうかと、いろいろな方、市の方とも相談している。津有地区公民館は、市で2番目に活動を頑張っているというような話も聞いた。いろいろな活動をやっていて、その都度我々にも声を掛けていただくこともある。

今のお話の出前サロンについて、各町内においても参加人数は決して多いわけではないが、継続することが大事なのかなと思う。自分の町内だけでなく、近隣の方も含めて、顔合わせという部分については、この出前サロンや体操に皆さんが参加されていると思うので、これからも継続していただきたいと思う。

【藤井(潔)委員】

近くに会館があって、出前サロンをやっているが、私はまだ一度も出たことがない。私よりも年上の人が多くて面倒だし、あまり行きたくないなという気持ちがあったからだ。ただ、竹内委員の一度試しで出てみたらはまったという話を聞いて、私もそういうのに参加してみようかなと思っている。

【藤井(光)委員】

私も公民館でいろいろな事業をやっているのは知っていたが、仕事の都合でなかなか

出席できない。仕事を卒業したら、参加させていただこうかなと思っている。

【丸山(明)委員】

2か月前にも似たような感想を持ったが、いろいろなことをやっているなど。それまでは気にもしなかったというのが正直なところだ。自分が参加する、しないは別として、活動そのものは有意義なことをされていると思う。

【丸山(勝)委員】

公民館活動について、全然知らないというか、タッチしていなかったし、これからもきつとしないだろうと思う。自分の趣味が一番楽しいし、まだ仕事もしているので、時間がない。趣味ができなくなって、体が動かなくなったら寄せてもらってもいいかなと思うが、学びの輪が人を育み地域をつなぐというこの理想、目指す姿には程遠いのかなと思っている。

【丸山(孝)委員】

平成町に住んでいて、公民館は家から歩いて3分ほどだが、町内行事以外でここを訪れることはない。ただ、車を買っていただいたそうで、ここまで来られない方を送迎して活動されているとお聞きした。自分も趣味の方が忙しくて、なかなかこちらに来ることはないが、地域として、ここがあるということは大きな強みだと感じている。

【山本委員】

サロンには一度参加させていただいた。全然知らない人との話ですごく良かったと思う。それと、大島公民館主事は本当にいろいろと試行錯誤されているが、公民館までの送迎をどうするか。今は、サロンの車があるということだが、送迎の車が運行されること自体、知らない人もいるように思う。もっとアピールしてはどうかと思う。

【石黒副会長】

私もここでどんな活動をしているのか、これまでよく分からなかった。話を聞いてみると、共通の趣味を持った人たちがサークル的な活動をしている。この部屋も可動率が大変高いと聞き、共通の趣味を持った人たちの居場所になるし、脳の活性化にもなるから、大変よいのではないかと考えた。

先ほど丸山(勝)委員のお話を聞いていて、私も特に今は何か趣味を持って、ここで活動しようとは思わないが、何かきっかけがあれば、自分と趣味の合う人と何か交流できたらいいなとは感じた。それと、公民館事業については、いろいろ工夫されていると思うが、正直言って、今は参加したいと思えるものがなかなかない。

いつも同じことを言って申し訳ないが、人がどんどん減る状況での地域の課題について、公民館事業を学びの場として活用できないのかと思っている。例えば、親が他界した後の家や土地、農地をどうやって相続するのかなど、公民館事業で取り上げていただくと、私も参加したいなという気持ちになる。

【中島会長】

私は毎回、公民館事業に参加している。先ほど紹介のあった地域づくり協議会の活動にも参加している。公民館とは直接関係ないが、服部委員が会長をされている津有北部スポーツクラブの夏祭りなどにも、役員として参加している。参加することから何かがつながっていくのかなと思っている。私は、役員を辞めたら参加しないというのではなく、これからもずっと参加していきたいと思っている。

【青木委員】

まず、地域活動にとって、この公民館はなくてはならないところである。会議は全部ここだし、今まで戸野目小学校でやっていた津有北部の敬老会も、今年から空調のあるここで行うことになった。

公民館事業について、仕事を持っている方はほぼ参加できないのが実態。ただ、リタイアされた方は、なるべく参加すればいいと思う。先ほど趣味というお話も出たが、手芸は私にはできないから出ないが、それ以外の講座で出られるものは日程が合えば出るようにしている。自分の興味も確かに大事だが、出てみると意外とよいものもあるので、あまり自分の関心や興味にこだわらない方が、これからの人生にはいいのかなと実感している。本当に公民館主事や担当の皆さんが知恵を絞っているが、これだけ価値観が多様化している時代に、多くの人に受ける事業は基本的にはないよと言って慰めている。出席率が悪いものもあるので、もし時間と都合が合えば、興味はなくても一回出てみてはいかがかと思う。

【近藤委員】

私も公民館の事業に全く参加してこなかった。今後、参加したいものがあれば参加してみたいと思う。

【中島会長】

これまでの発言について、意見はあるか。

【丸山(明)委員】

2か月前に聞けばよかったのかもしれないが、自分の趣味の仲間を集めて、始めてもよ

いのか。

【中島会長】

基本的には、自分たちで集めてやることはできる。公民館に利用申請の手続きをしていただければ可能かと思う。

【石黒副会長】

先ほどの青木委員のお話と、私の意見との違いをどう考えるべきか。興味や関心がなくても一度出してみると、人とのつながりができて交流が広がるなど、いいことがあるんじゃないかというご意見だった。私はどちらかというと、ピンポイントで興味や関心のある人を絞って、共通の目的を持って集めた方がいいのではないかという考え方だが、青木委員にもう一回お聞きしたい。

【青木委員】

先ほどの相続などの講座は、以前やったと思う。ただ、ピンポイントに絞ったテーマでやろうとしても、おそらくこの津有地区では大したことはできないと思う、もう少し地域を広げるなどして行った方が良いのではないだろうか。

【石黒副会長】

他の趣味とかはどうか。相続とかではなくても。

【青木委員】

いろいろなサークルに利用されているのではないか。今月の敬老会でも、ここの利用団体のいくつかに出演をお願いしている。津有地区でない人もかなり使っていると思うが、地域の行事とも関係しているので、そこは助かっている。

【服部委員】

私の家族も公民館を借りて、クラフト教室をやっている。自分で人を集めたいのなら、公民館に空き状況を確認しながらやっていただくこともできる。先ほどの相続の問題とかも勉強会として非常にいいと思う。

2、3年前にお寺とか神社の勉強会がここであった。上雲寺の方も何人か来られて、実際にいろいろなお寺や神社を巡って、こんな場所にこんないい神社があるということを知った。地域でこういう活動をやりますよというのもよいし、自分の趣味として仲間を集めてやるのもよい。ここの公民館は稼働率が高いらしいが、もっと活用していただければなとも思っている。

【中島会長】

他に、意見はあるか。

(発言無し)

意見が無いようなので、次に町内会長への質問票の集計について、事務局からの説明を求める。

【鈴木主事】

・資料 9、10 に基づき説明

【中島会長】

ただ今の発言について、質問はあるか。

(発言無し)

質問が無いようなので、次に「町内会活動」「町内会役員」「子ども会活動」の 3 つについて、気付いた点などを聞いていく。

まず「町内会活動について」、委員から一人ずつ発表していただく。

【服部委員】

南部、北部で 32 町内あるが、老人会が 9、青年会が 5、婦人会が 3 ということで、やはり今の時代を物語っているなと思った。老人会が最近どんどん解散している地域もあるし、かつては農協を始め、婦人会も頑張っておられた。一方、まだこれだけあるんだなって驚いたのが、子ども会の 19。非常に嬉しく思った。

【藤井(潔)委員】

町内会の活動となると、参加する人の固定化や少子化で徐々に人がいなくなるという話に行き着いてしまう。どうしたらいいのか、自分なりに考えても答えはない。これで何か解決策が見つかるとは思えず、このまま騙し騙しやっていくしかないのかと感じた。

【藤井(光)委員】

私の町内では、コロナ禍を契機に行事等の活動が極端になくなってきて、継続しているのは、年始会と取り立てだけだ。ほとんど活動がなくなってしまったのが寂しい。他の町内では復活されているところもあるが、周りではほとんどない。それと、役員についても、手を挙げてやってくれる人はいない。年功序列ではないが、順番でやるしかないのかなと思う。子ども会についても子供が少ないので、活動自体が縮小しているか、もしくは何とか子供のいる家庭が活動を維持されて、町内で補助をするという感じで、なかなか現状は厳しいかなと思う。

【丸山(明)委員】

町内会活動組織の「その他」が気になった。回答をそのまま載せたと思うが、多面的機能支払活動組織とか自主防災組織とか、町内会とイコールだと思ってあえて答えない項目のように私は感じた。実際、活動する組織はかなりあると思う。その下の「お楽しみ会」も自粛するようなどころも多いし、「長面農地を守る会」も多面的機能の組織だと思う。今後同じことをするのであれば、少なくとも多面的機能支払活動や自主防災組織は選択肢に追加した方がいい。

【中島会長】

本来ならば別組織であるべきものを町内会がやっておられるということで、ここに書かれているものと私は理解している。

【丸山(勝)委員】

問1で、青年会が5、婦人会が3と、非常に組織が少なくなっている。問2の行事について、納涼会が5、それからレクリエーションが1であり、やられていないなと思った。

問4の縮小した理由の中で、「企画・運営の手間がかかる」と答えた町内会長がたくさんおられる。特にレクリエーションは企画と運営に非常に手間がかかる。納涼会も酒を飲んで盆踊りをするだけではない。やはり企画とか運営の手間が非常にかかるので、そういう部分はどんどん減っていくのかなと感じた。一方、年始会やさいの神、お祭りは定型化していて、何も考えることはない。毎年やることが決まっている。そういうのを考えると、町内会の在り方とか姿がだんだん変わっていくのではないかなと思う。

問8の町内会活動を行う上での課題に、高齢化と人口減少、参加者減少という回答が多く見られる。町内会長や役員が苦しみながら、町内会を運営していく時代ではないと思う。どの範囲まで活動を狭めるのか、あるいは、隣の町内会と合同で活動しようというようにしていかないと、どんどん先細っていく。町内会自体を必要としないという答えがほとんどであれば、解散する手もあるだろう。しかし、それでは後々問題が出たときに困るだろう。町内会を形として残していくのであれば、隣の町内会と合同でできるものや、範囲を狭めて活動を減らす、定例的な物を中心に活動をしていくというような、会員同士のつながりを求めるというやり方があるのかなと思う。

私は茨沢町内会だが、五ヶ字組合という、町内会が5つ集まって1つの組織を作っていて、消防団も敬老会もこの5つの町内会で対応している。同じ小学校を卒業した人たちが集まっており、各町内会も小さいので、集まってやっているのが一番いいのかなと思っている。いくつかの町内会が合同で行事を実施するのがいいのかなと思っていたの

で、話をさせていただいた。

【丸山(孝)委員】

今現在、私も町内会の役員をしているが、行事をやっても 20 年前と比べると、本当に参加人数が少なくなったと実感している。行事に関しては、コロナ前に戻った。

役員の成り手という点に関しては、まだ町内自体が大きく、班長も持ち回りでやっていただいております、他の町内と比べれば非常に恵まれているのかなとは思っています。

ただ、先ほどの中学校の統合とか、保育園の統合というようなことも考えると、30 年後とか 50 年後はどうなっているのか懸念している。

【山本委員】

私の町内会は 24 戸しかなく、婦人会はもう解散した。また、お祭りの後に公民館で直会があるが、回数が 3 回から 1 回に減った。住民が集まる機会、コミュニケーションを取る機会自体が無くなりつつあり、皆さん、あまり人と関わりたがらない風潮がある。

【石黒副会長】

今の丸山（勝）委員の話は、いいなと思った。資料の町内会活動を行う上での課題を読むと、人が減り、高齢化が進むと、今までどおりにはできないのだろうということが分かる。山本委員の話聞いても、今までどおりできないのが良くないという価値観から、だんだん活動が減って行ってできなくなっていく、最終的に何年後にはどういう形になっているのかという将来図をきちんと捉える必要があると思う。その上で、そこまでゆっくりと下がっていくために今、どういう体制で行事や活動を行っていくのが良いのかを考える時期に来ているのではないかなと思った。

【中島会長】

町内会活動について、コロナのせいだとか、人手不足だ、参加者が少ない、若い人も高齢者も仕事をしている、もっと年を取れば身体が動かないとか、皆さん、出てこないための言い訳でしかないと思う。近頃は、会議が終われば皆さん、すぐに帰ってしまう。町内会は何のためにあるのだろうか。地域の皆が協力して自分の地域の暮らしを守るためにあるのではないかな。一生懸命な人にそんな活動をやめてしまえと言うのは勝手だが、そういう人は活動に参加も協力もしない。参加すれば役員を押し付けられると思っているから、誰も参加したくない。諸々を理解して、皆で支え合うのが地域の良いところではないだろうかと思う。

【青木委員】

私は戸野目の町内会長になって5年目だが、コロナで一時休止したことはあるものの、これまで取りやめた行事は一つもない。ただ、同じことをずっと続けていればいいというものではなく、その時その時で考えや環境などが変化するわけで、それに合わせてお祭りなどのやり方を適宜変えている。

アンケートの結果も一つの参考になるのかもしれないが、基本的に町内会はその町内でできることをやればいいわけで、話し合っただけで決めればいいと思う。活動規模の大小とか、事業の多い少ないではなく、話し合っただけで取り組んでいるかどうかの方が大事だと思う。ただやればいいというものではない。

私の町内で一番参加率が高いのが、防災訓練だ。町内の全員を知ることは無理なので、少なくとも近所の方の顔と名前が一致できていることが大切だと思っている。そうでないといざというときの助け合いができない。毎年4月に防災委員会を開いて、そこに組長から必ず参加してもらい、近所にいる救助が必要な人などの情報を共有している。大体10年くらい経つと情報が一回りするんで、近所の人ことは、これで把握できているってやっている。

繰り返しになるが、それぞれの町内で自由にやればいいし、やり方はそれぞれ工夫していけばよいと思う。私の町内では、直会で洗い物が出ないようにプラスチックのコップに変えたり、お神輿も人手が足りなくて担げないならリヤカーに載せたりするなどして、いままでどおりでは難しいことも何とか工夫しながら同じ行事を続けている。

【近藤委員】

私もずっと町内会に関わってこなかったが、役員をやってみて、本当に町内のことを考えているなと感じている。だから役員会は必要なものだと思う。今、青木委員が言われたように、その町内に合わせていろいろ考えて工夫していけばよいと思う。

【竹内委員】

昔からよく言うように、人は一人では生きられない。助け合って生きている。それと思いやりが大事だ。嫌だなと思っても、地域に住んでいるからには、それは宿命だと思う。私も若い頃は町内の行事等に出ないでいいと思っていたが、ある程度の年齢になって自分が役員の立場になってみると、当時の考えは間違っていたと思う。役員になられた方には、最初は否定的な考えを持っていても、できる限り協力してもらうことで、理解を深めていただければと思う。

それと、アンケート結果の問1に関して、27町内が「役員会」を選択しているが、残

りの5町内は会長が一人でやっておられるのか。役員会をやっていないのか、疑問だ。

【中島会長】

小さい町内会で数軒しかないようなところは、直接話していると思われる。

次に「町内会役員について」、発表していただく。

【服部委員】

私の町内だけではないのかもしれないが、役員に女性がいらない。今、女性の登用とよく言われるが、夫がいるから出ないという女性が非常に多い。会計の適任者として思い当たる人がいるのに、今までそれなりに役員会に出席していた人が務めるものだというような意見が出てくる。女性を登用したいが、どうしたものかと実際悩んでいる。

【藤井(潔)委員】

質問だが、役員を確保するための工夫として、選択肢に「業務のデジタル化で負担減」とあるが、具体的にどのような取組があるのだろうか。

【中島会長】

多分、回覧板のデジタル化や役員間の情報共有のメールだと思う。戸野目町内会ではLINEで連絡を取り合っていると聞いた。

【鈴木主事】

連絡手段をLINE等のメッセージアプリで行う、会計の事務処理の際にエクセルなどの表計算ソフトで計算するというような回答を多くいただいている。

【藤井(潔)委員】

LINEとかメールを地域で使っているのか。

【鈴木主事】

地域というよりも、町内会の役員間で行われているところがある。

【藤井(光)委員】

うちの町内では、選考委員会を設置して、各班から一人ずつ委員が出て役員を決めている。それも今後考えた方がいいかなと思う。

【丸山(明)委員】

うちの町内が特殊かどうか分からないが、実質的にもう10年ぐらい同じメンバーで変わらない。私が役員になってから、当時の会長と副会長が抜けて以降、8人中7人が留任となっている。これまではそれで回っていたからいいじゃないかと、皆さんは考えているかもしれないが、今後どうなるか分からない。

また、うちの町内では、女性は役員の候補に挙がらないし、女性自身に役員として参加する気がない。意識改革が起きない限り、女性の登用は難しい。性別に関係なく、適任者がやればいいと思う。

【丸山(勝)委員】

私は茨沢という小さな町内会だが、今、丸山（明）委員が言われたとおり、役員が何年も続けており、これまで大きな問題にはならなかったが、今は大体2年3期の6年を目途に交代してくれという声を上げられる。やはり年功序列で、次はあの人という風に順番に送り出すと、最後にお前の後ろはいないぞという話になってしまった。私はまだ会長をやっていないが、10年以上会計に関わっていて、次はお前だと言われている。町内会は必要だし、潰したくもないので、次に誰もいなければ、私が会長になったら輪番制にしようと提案してある。そのようにして、町内会組織を残していきたいと思っている。

【丸山(孝)委員】

うちの町内では、女性一人が会計を担当している。副会長もそう。町内会の規約では、1期2年で2期4年までとなっていて、今のところは何とか確保できている。次は誰かとなると、町内会長が個別にお願いして決まっているような状況だ。

【山本委員】

うちの町内会は、以前は協議員となる班長が3人と町内会長の計4人体制だったが、今は2班となった。はっきり言って私のところの役員を決め方は、一発選挙だ。他の町内会の人から、それでよく成り立つねと言われるが、しょうがない。70歳定年制にもできないので、一発勝負で選ぶことになっている。

【石黒副会長】

ある集団の意思決定をする場合に、誰が役員になるか、代表になるかというのは、大きなことだと思う。例えば、うちの町内では選挙をしているが、各戸一票となっていて、大体一番年配の方が選ぶ。果たして、そういう方だけの意見がその町内の全体の意見としてよいものかといつも考えている。

そういう意味では女性であったり、若い人であったり、なるべく多様な人から役員になってもらえるような仕組みができないものかと考えている。他の町内では、町内の全員が一票を持っていて、投票するところがあると聞く。そういう意味で選挙の仕方を変えることは、役員を決定する上で重要だと思う。

【中島会長】

私は、順番に役員を回して、全部回ったら振り出しに戻せばよいと考えていたが、先ほどの青木委員のご意見のように、結局はその町内会がどう考えるか、そこに合った役員の選出方法とすればよいと思いを改めたい。

【青木委員】

戸野目町内会の場合、今まで 8 人だった協議員が一人減って 7 人となった。この協議員は輪番制のようなもので、1 期 2 年で必ず交代するので、随分前からほぼ毎回、女性からも役員をやっている。役員選びで一番悩ましいのが町内会長だ。戸野目の場合は、小学校の後援会長などの当て職がたくさんあるため、仕事をしていると町内会長を務められない。それと、ご存じのとおり 70 歳までの就業機会の確保が企業の努力義務となったのもあって、なかなか担い手が見つからない。好き好んでやる人はいないと思うが、皆さん順番が回ってきてやるという感じだ。

それと、法人化した町内会では、原則一人一票を持っているので、選挙と役員選考はそれほどリンクしないのかなと感じている。

【近藤委員】

藤塚町内会では、選考委員で決めているが、おそらく今まで女性が役員になったことはないと思う。ずっと男性がやっている状況だ。

【竹内委員】

以前と違って、何年か前から選考方法を変えたらスムーズになった。今は、町内会長を含む協議員が次期協議員 6 人を選考し、町内の皆さんから了承してもらったら、互選で町内会長を決めている。うちの町内の場合、まだ私の後任がいるから安心だが、軒数の少ない町内は人材不足だろうが、自分たちの町内を守っていくという使命のもと、皆さんに頑張ってもらいたいと思う。

【中島会長】

次に「子ども会活動について」発表していただく。

【藤井(光)委員】

小学生が 3 人ぐらいしかいない。子ども会は町内から補助をいただいているので、減額されないよう、いろいろとやっているのが現状だ。子供がだんだんいなくなると、その辺は厳しいかもしれない。

【丸山(明)委員】

子ども会の活動について、昔と今とでは全然違うだろうから、ほとんど分かっていない。うちの町内も小学生の数はかなり少ない。一世帯で2人とか3人というところもあり、家の数にしたらほんの数軒だろうから、その人たちが話し合って上手く運営しているというイメージである。それでいいじゃないかと思う。

【丸山(勝)委員】

小さな町内なので子供の数も少ない。今は隣の藤塚町内会と一緒にあって、子ども会の活動をしていると聞いている。子ども会への助成金も当然出している。やはり先ほどから言うように、小さな組織であれば隣と一緒にあって活動することで、子供たちも顔を見ながら一緒に活動できるので、いいのではないかと思う。

【丸山(孝)委員】

子ども会に入っている方というか、小学生が何人いるのか、把握していないが、多分この30人というのは、平成町だろうと思っている。

私の子供が小学生の頃は、バス遠足や旅行に行ったものだが、本当に今は子供の数に合わせて行事も少なくなっていると思う。お母さんたちも忙しい中でいろいろやりくりしていることだと思うので、本当に致し方ないのかなと思っている。

【山本委員】

町内には今、小・中学生がいない。

【石黒副会長】

今後、子供がいなくなっていく中で、どういう形を目指していけばいいのか、分からない。

【中島会長】

うちには子供がいないのでよく分からないし、四辻町が特別なのかかもしれないが、1区、2区、3区、4区に分かれていて、各区でさいの神などをしているので、子供が参加できるような行事を町内会と地域で作っていかなければならないのかなと思っている。

【青木委員】

昔と状況が全然違うのが、ほぼ全部が共稼ぎ世帯だし、子供たちも塾とか習い事でなかなか皆と一緒に集まることが難しくなっている。

それで町内会活動も当然それに合わせていけないといけいないので、子ども会にお願いしているのが、3月に会議をして、その年の行事で皆が関係するクリーン活動やお祭り、さいの神について、皆さんの意見を聞きながら調整している。以前は皆で灯籠を作り、

準備したものだが、今はもう無理だなと思い、お祭り当日の参加でよしとしないと、なかなか参加してもらえないと感じている。ただ、子ども会でどんな活動をするかについては、町内会側から一切お願いすることはなく、任せている。ラジオ体操は今年からやらなくなった。

【近藤委員】

子ども会の活動についてはよく分からない。ラジオ体操を始め、いろいろやっていると感じる。

【竹内委員】

うちの町内の子ども会でどのような回答をしたのか把握していないが、小学生と中学生は出たり出なかったりだが、クリーン活動に出てもらっている。そして、来月 8 月 2 日、年に一回のサマーフェスティバルということで、皆さん集まっていたけど、それにも参加してもらっている。また昨年、子ども会から要請があつて、一人当たり数千円を子ども会へ支援している。

【鈴木主事】

本日いただいたご意見は、今後の分析の参考にするため、事務局で持ち帰らせていただきたい。

【中島会長】

事務局は、皆さんのご意見をまとめて、分析してみたいということなので、これを各町内へ報告するのはもう少し時間がかかると思う。その辺りは、まとめ次第ということになるかと思う。今日は皆さんのいろいろなご心情、悩みを聞かせていただいた。回答された町内会長さんも、皆さんと同じようなお考えだと思っている。

以上で、次第 3 議題「(2) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第 4 その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【村山副所長】

- ・ 次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・ 次回の地域協議会：8 月 19 日（火）午後 6 時 30 分から

津有地区公民館 大会議室（予定）

- ・ 諏訪区・津有区・高士区の 3 区合同の協議会開催

9 月 25 日（木）午後 6 時 30 分から

津有地区公民館 大会議室（予定）

【中島会長】

以上で次第４その他「（１）次回開催日程」を終了する。

次に、次第４その他「（２）その他」に入る。

その他、何かあるか。

（無しの声）

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。